

## (2) 胚凍結

胚はそのまま凍結すると、細胞内に氷晶が形成され、細胞が破壊されてしまうため、凍結保護剤の中に胚をいれて凍結を行います。

凍結方法には、プログラムフリーザーという特殊な装置によって徐々に温度を下げていく緩慢凍結法と、特殊な保護剤を用いて急速に凍結するガラス化(Vitrification)法(急速凍結法)があります。どちらも液体窒素にて超低温(-196℃)で保存します。当院ではガラス化保存法で凍結をします。

### 【ガラス化保存法】

胚を平衡液に入れ、平衡化(細胞内の水分量と細胞外の水分量のバランスをとること)した後にガラス化液に胚を移します。クライオトップと呼ばれる小さな樹脂性の板の上に、ごく少量のガラス化液と胚を乗せ、一気に液体窒素(-196℃)に投入します。その後キャップをして、液体窒素内に保存します。

## (3) 融解胚移植

通常融解胚移植は、凍結したタイミング(採卵後何日目)に合わせて子宮腔内に胚移植を行います。融解方法は以下の通りです。

### 【ガラス化保存からの融解】

胚を融解する場合、液体窒素からクライオトップを取り出し、直ちに37℃の融解液に入れ急速に融解し胚を取り出します。取り出した胚を希釈液に入れ徐々に凍結保護剤を薄めていきます。その後洗浄液で2回洗い、培養液に入れて培養します。

## 7. 治療の流れ

### (1) 基本的な流れについて (図2の番号に連動)

#### ① 治療プランの説明と同意書作成

胚移植前周期の月経1~5日目に必ずご夫婦で受診して下さい。

原則、①の受診日が治療開始日となります。

同意書に関しては、基本的に①の時期に来院していただきますが、医師の許可があれば、④までの期間内で取得可能です。

#### ② 点鼻薬(酢酸ブセレリン)、低用量ピル、エストロゲン・プロゲステロン合剤の使用

予定外の排卵を抑制や胚移植日を調整する目的で使用します。開始タイミングは、使用薬剤によって異なります。薬を使用しない自然周期にすることもあります。

#### ③ エストロゲン製剤の使用

月経2日目よりエストラーナテープを3枚/回を下腹部、大腿部内側などへ貼付します。  
2日(48時間)毎に貼り替えて下さい。

例：月曜日 AM 9:00 → 水曜日 AM 9:00 → 金曜日 AM 09:00

内服薬(ジュリナ錠)を併用する事もあります。

#### ④ 胚移植日などの具体的な日程の提示

胚移植周期の月経1~5日目に必ず受診して下さい。

#### ⑤ 胚移植のおおよそ1週間前の診察

医師の指示した日に外来を受診して下さい。

採血および超音波検査を行い、胚移植日を決定します。

確定した場合、黄体ホルモン(プロゲステロン)製剤の処方を行います。

#### ⑥ 黄体ホルモン(プロゲステロン製剤)の使用

医師が指定した日より膣剤を開始してください。内服薬を併用することもあります。

#### ⑦ SEET 法実施

指定された日に外来を受診していただき、培養液の注入を行います。

(パンフレット「SEET 法について」を参照して下さい)

#### ⑧ 融解胚移植

移植日当日 11 時～12 時に医師より実施可か否かの電話があります。胚移植実施時間は来院後に決まります。胚移植後、30 分程度安静としご帰宅となります。

ご帰宅前に、妊娠判定まで使用するホルモン剤の院外処方箋をお渡しします。

#### ⑨ 妊娠判定

胚移植時に医師が指定した日に受診して下さい。先に採血があります。

保険適用や助成金申請においては、このタイミングが治療終了日になります。

#### ⑩ 妊娠後ホルモン補充

妊娠した場合、ホルモン補充は妊娠 8 週から 12 週くらいまで続けます。

### (2) 治療の流れの補足事項

#### 1) 同意書取得について

1 回の治療ごとに、胚移植前周期の月経 1～5 日目までに必ずご夫婦 2 人で来院していただきます。

#### 2) 胚移植決定後の動きについて (2022 年 10 月より胚移植は入院から外来対応になり変更点があります)

12 時に外来で処方された抗生剤を内服してください。膣座薬はお昼の分は入れずに病院に持参してください。

電話連絡時に指定した時間に外来受付をしていただいた後、1F 採血室で採血をしてください。採血終了後に 3A 病棟にお越しください。

胚移植前は水分も食事も自由にとっていただいて構いません。

交通渋滞で指定時刻に着くことが困難な場合は、必ず病院にご連絡ください。

#### 3) 土・日・祝日の胚融解について

当院では実施しておりません。

#### 4) 融解胚の変性などで胚移植が中止となった場合

必ず指定された日に外来を受診してください。

#### 5) 新型コロナウイルス感染症対策

原則、胚移植前に新型コロナウイルス PCR 検査は実施しません。ただし胚移植前に発熱、体調不良などがあった、感染リスクが高いお仕事や場所に行った場合、医師の判断で PCR 検査を実施することがあります。

新型コロナウイルス PCR 検査が陽性となった場合は治療を中止とし、融解後の胚は廃棄します。(融解胚の再凍結は当科では実施しておりません)

なお胚移植時の夫の立ち会いは中止しております。(2022 年 10 月現在)

# ホルモン補充周期 治療の流れ

